

平成 30 年度特許出願技術動向調査－人工関節－の報告書の内容の一部につきまして誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

なお、特許庁ウェブサイトに掲載している平成 30 年度特許出願技術動向調査（概要）及びスライド資料については、訂正を反映しております。

【訂正箇所一覧】

訂正箇所	誤	正
<要約> 第2章 市場環境調査 第1節 人工関節の市場環境 P.5 本文、図 3、図 4	要約、本編第2部 1. タイトル <u>人工関節の地域別規模</u> 本文 <u>世界の人工関節の地域別市場規模(2014年)及び</u> ・ 図 3、図 2-1-6 タイトル <u>人工関節地域別市場規模(2014年)</u> 図 4、図 2-1-7 タイトル <u>人工関節地域別年平均成長率(CAGR)(2014-2019年)</u>	要約、本編第2部 1. タイトル、本文、図タイトル中の「人工関節」を、「人工関節・ <b>その他の人工臓器</b> 」に訂正いたします。  本編第6部 1. 市場環境の冒頭の文章中の「人工関節」を、「人工関節・ <b>その他の人工臓器</b> 」に訂正いたします。
<要約> 第4章 特許動向調査 第2節 技術区分別動向 P.29 本文	本文中に記載の数字が、副分類のものを記載  「術具(ガイド機能技術)」が <u>1,057件(15.8%)</u> で最も多く、次いで「 <u>設計(形状設計技術)</u> 」の <u>843件(12.6%)</u> 、「 <u>製造手段(表面加工処理)</u> 」の <u>748件(11.2%)</u> 、「 <u>術具(その他)</u> 」の <u>667件(10.0%)</u> 、「 <u>術具(固定化、ピンガイド)</u> 」の <u>584件(8.7%)</u>	本文中に記載の数字を、副分類のものから <b>主分類の数字に訂正</b> いたします。数字の訂正に伴い、 <b>順番も訂正</b> しています。  「術具(ガイド機能技術)」が <b>652件(19.0%)</b> で最も多く、次いで「 <b>術具(その他)</b> 」の <b>533件(15.5%)</b> 、「 <b>設計(形状設計技術)</b> 」の <b>525件(15.3%)</b> 、「 <b>製造手段(表面加工処理)</b> 」の <b>355件(10.4%)</b> 、「 <b>術具(固定化、ピンガイド)</b> 」の <b>256件(7.5%)</b>
<要約> 第4章特許動向調査 第1節全体動向 P.19 3. タイトル	3. タイトル出願先国(地域)別－出願人国籍(地域)別出願件数 <b>収支</b>	3. タイトルにある「 <b>収支</b> 」を削除します。
<要約> 第6章 総合分析と提言 第1節 調査結果の分析 P.55 1. 市場環境 本文 第4パラグラフ	<u>2006年から2017年までの日本人人工関節</u> ・(中略)・60歳代ピーク(26,458件)に・(中略)・70歳代で最も多く( <u>42,134件</u> )の施術が行われている	第4パラグラフの文章を、「 <b>2006年2月から2018年3月までの日本人人工関節</b> ・(中略)・60歳代でピーク( <b>33,525件</b> )に・(中略)・70歳代で最も多く( <b>53,944件</b> )の施術が行われている」に訂正いたします。
<要約> 第6章 総合分析と提言 第1節 調査結果の分析 P.59 3. 特許出願動向 本文	59 ページ冒頭の文章中の後半の4年間( <u>2001-2014年</u> )を比較	「後半の4年間( <b>2011-2014年</b> )を <b>比較</b> 」に訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
<p>&lt;スライド資料&gt; 2. 市場環境調査 P.4 本文、右図</p>	<p>右図タイトル 「人工関節の地域別市場規模 (2014年)」</p> <p>本文 「地域別では、米国が12,344百万ドルで44%を占め、最も大きい市場である。次いで、西ヨーロッパが27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が24%で続いている。」</p>	<p>右図タイトル 「人工関節・その他の人工臓器の地域別市場規模(2014年)」 に訂正いたします。</p> <p>本文 「人工関節・その他の人工臓器の地域別市場規模では、米国が12,344百万ドルで44%を占め、最も大きい市場である。次いで、西ヨーロッパが27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が24%で続いている。」 に訂正いたします。</p>

以下、詳細な訂正内容です。

○〈要約〉 第2章 市場環境調査 第1節 人工関節の市場環境 P.5 本文、図3、図4  
の「人工関節」の文言の修正

【誤】（要約5ページ）

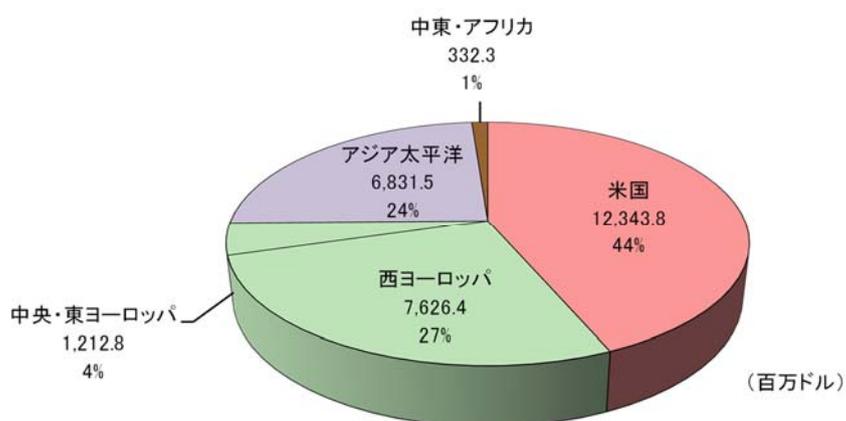
2. 人工関節の地域別規模

世界の人工関節・その他の人工臓器の地域別市場規模（2014年）及び地域別年平均成長率（CAGR）を図3、図4に示す。

地域別では、米国が12,344百万ドルで44%を占め、最も大きい市場となっている。次いで、西ヨーロッパが7,626百万ドル、27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が6,832百万ドル、24%で続いている。

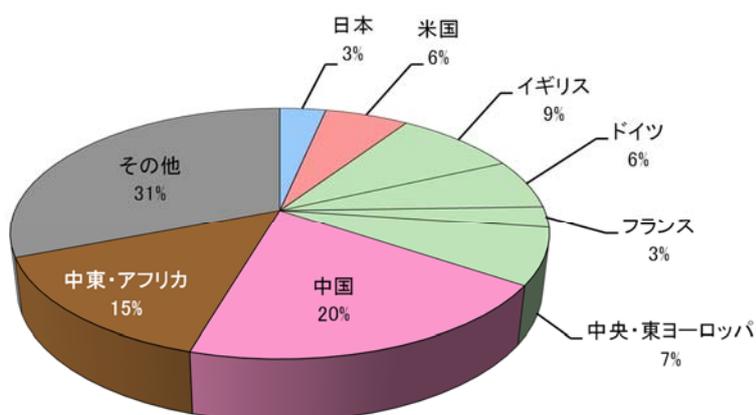
一方CAGRは中国が20%と最も大きく、次いで中東・アフリカ地域が15%であり、米国、日本を大きく引き離している。

図3 人工関節地域別市場規模（2014年）



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成27年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の4ページを基に作成

図4 人工関節地域別年平均成長率（CAGR）（2014-2019年）



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成27年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の4ページを基に作成

【正】（要約 5 ページ）

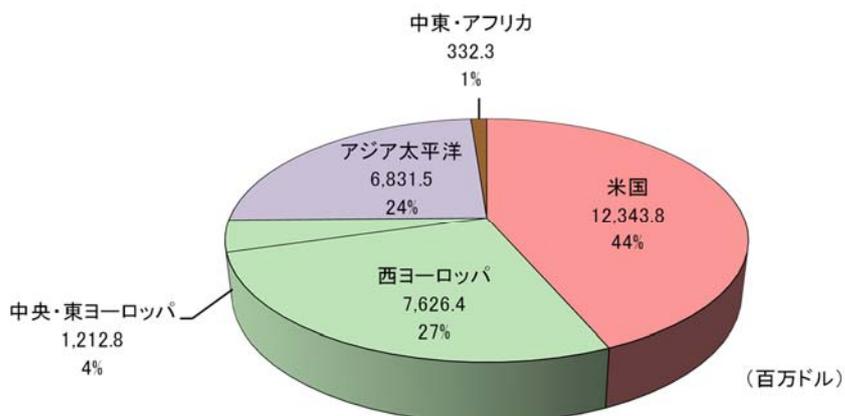
2. 人工関節・その他の人工臓器の地域別規模

世界の人工関節・その他の人工臓器の地域別市場規模（2014年）及び地域別年平均成長率（CAGR）を図3、図4に示す。

地域別では、米国が12,344百万ドルで44%を占め、最も大きい市場となっている。次いで、西ヨーロッパが7,626百万ドル、27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が6,832百万ドル、24%で続いている。

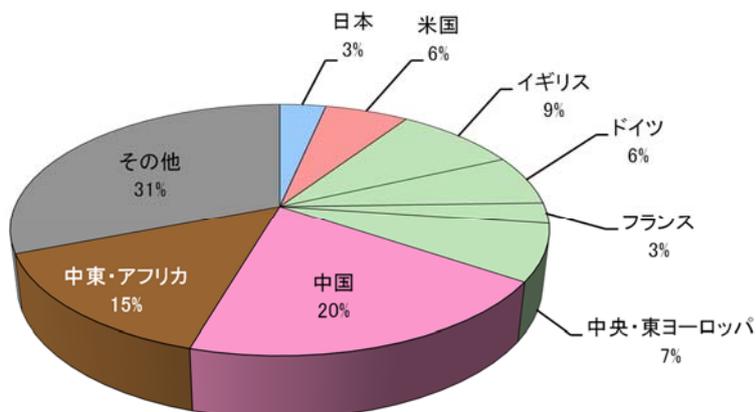
一方CAGRは中国が20%と最も大きく、次いで中東・アフリカ地域が15%であり、米国、日本を大きく引き離している。

図3 人工関節・その他の人工臓器地域別市場規模（2014年）



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 27 年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の 4 ページを基に作成

図4 人工関節・その他の人工臓器地域別年平均成長率（CAGR）（2014-2019年）



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 27 年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の 4 ページを基に作成

【誤】(要約 29 ページ)

技術区分別のファミリー件数の合計(2001年～2016年)は、「術具(ガイド機能技術)」が1,057件(15.8%)で最も多く、次いで「設計(形状設計技術)」の843件(12.6%)、「製造手段(表面加工処理)」の748件(11.2%)、「術具(その他)」の667件(10.0%)、「術具(固定化、ピンガイド)」の584件(8.7%)である。

【正】(要約 29 ページ)

技術区分別のファミリー件数の合計(2001年～2016年)は、「術具(ガイド機能技術)」が652件(19.0%)で最も多く、次いで「術具(その他)」の533件(15.5%)、「設計(形状設計技術)」の525件(15.3%)、「製造手段(表面加工処理)」の355件(10.4%)、「術具(固定化、ピンガイド)」の256件(7.5%)である。

【誤】(要約 19 ページ)

3. 出願先国(地域)別—出願人国籍(地域)別出願件数収支

【正】(要約 19 ページ)

3. 出願先国(地域)別—出願人国籍(地域)別出願件数

- <要約>第6章 総合分析と提言 第1節 調査結果の分析 1. 市場環境 P.55  
第4パラグラフの文章を修正します。

【誤】

2006年から2017年までの日本人工関節登録制度により登録された患者情報より集計された年代別の人工関節置換術割合からは、人工股関節置換術は50歳代から70歳代が多く、特に50歳代から急に増加し、60歳代ピーク(26,458件)に達している。一方、人工膝関節置換術患者は60歳代から80歳代が多く、70歳代で最も多く(42,134件)の施術が行われている(図5参照)。

【正】

2006年2月から2018年3月までの日本人工関節登録制度により登録された患者情報より集計された人工関節置換術の年代別割合を図2-1-19に示す。初回人工関節置換術は50歳代、60歳代から増加し始めることが示された。人工股関節置換術は50歳代から70歳代が多く、特に50歳代から急に増加し、60歳代でピーク(33,525件)に達している。一方、人工膝関節置換術患者は60歳代から80歳代が多く、70歳代で最も多く(53,944件)の施術が行われている(図5参照)。

- <要約>第6章 総合分析と提言 第1節 調査結果の分析 3. 特許出願動向 P.59  
冒頭の文章中の年代を修正します。

【誤】

調査期間の始めの4年間(2001-2004年)と後半の4年間(2001-2014年)を比較して、

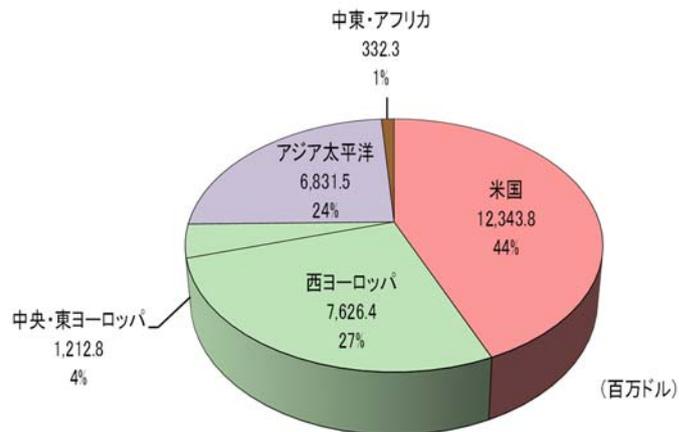
【正】

調査期間の始めの4年間(2001-2004年)と後半の4年間(2011-2014年)を比較して、

○<スライド資料> 2. 市場環境調査 –人工関節の市場規模–  
本文、右図の「人工関節」の文言の修正

【誤】 P.4 右図タイトル

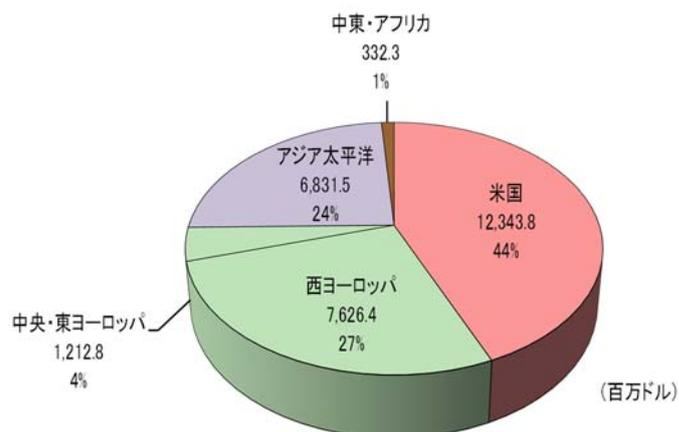
【人工関節地域別市場規模（2014年）】



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 27 年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の 4 ページを基に作成

【正】

【人工関節・その他の人工臓器地域別市場規模（2014年）】



出典：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 27 年度「販売戦略・市場拡大等に関する調査事業 2)a グローバル市場における日本企業の調査報告書（みずほ情報総研株式会社）」の 4 ページを基に作成

【誤】 P.4 本文

「地域別では、米国が 12,344 百万ドルで 44%を占め、最も大きい市場である。次いで、西ヨーロッパが 27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が 24%で続いている。」

【正】

「人工関節・その他の人工臓器の地域別市場規模では、米国が 12,344 百万ドルで 44%を占め、最も大きい市場である。次いで、西ヨーロッパが 27%、僅差で、日本・中国を含むアジア太平洋地域が 24%で続いている。」